

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 21 日現在

機関番号：13401
研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20530846
研究課題名 (和文) 現代的視点から自律的に歴史認識を発展させる小中一貫歴史カリキュラムの単元開発
研究課題名 (英文) The Development of History Curriculum, Covering Both Elementary School and Junior High School Level to Develop Autonomous Historical Cognition which Helps Students to Understand Modern Society
研究代表者 寺尾 健夫 (TERAO TAKEO)
福井大学・教育地域科学部・教授
研究者番号：70217412

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：

キーワード：単元開発、小中一貫教育、構築主義、歴史学習、社会科教育

1. 研究計画の概要

本研究では、歴史教育において従来から批判されてきた小学校と中学校における通史の繰り返し学習の問題の解決に焦点をあて、通史の単なる繰り返し学習ではなく、小学校と中学校を一貫して、現代社会の理解と結びつけて子どもに歴史認識を自立的、段階的に発展させる歴史カリキュラムの単元開発を行う。

2. 研究の進捗状況

平成20年度と平成21年度の研究で明らかにした構築主義の歴史カリキュラムの構成原理、内容構成原理及び授業構成原理を基にして、小・中学校を一貫して、現代的視点から子どもの自律的な歴史認識を発展させる歴史カリキュラムの全体像を明らかにし、これを構成する小学校から中学校にわたる段階制と系統性を備えた単元と具体的な歴史授業の開発を行った。次に、小学校、中学校の社会科教師の協力を得て、開発した単元の授業を実施し、結果の分析を通して単元の有効性を検討した。また、紛争や葛藤、プライバシー、民族、ジェンダーなど、現代とも共通する課題に関する単元を選び、現代社会理解の上で特に重要と考えられる単元を開発し、その実施と成果の検討を通して、開発した小中一貫歴史カリキュラムの有効性を検討した。しかし、カリキュラム全体の有効性の検討までではできず、今後残された課題となった。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

理由

平成 22 年度の配分科学研究費を繰越しているため、研究の進捗が遅れている。その理由は、昨年度まで行ってきた、紛争や葛藤、プライバシー、民族、ジェンダーなどについての単元開発に関わって、この分野の単元開発に於いて先進的な研究成果を生み出している米国研究者との共同研究を行って単元開発の質的向上を達成する必要性が生じてきたためである。

4. 今後の研究の推進方策

今後は米国の研究者との協働研究を行い、紛争や葛藤、プライバシー、民族、ジェンダーなどについての、現代社会の理解の上で重要であり、かつ質的に洗練された単元の開発を行う。また、これまで開発した単元を小中学校でさらに実施し、その結果の分析を通して有効性や問題点を明らかにし、これらを生かして小中一貫歴史カリキュラム全体の構造や整合性を再検討して、より有効性を備えたカリキュラムを完成させていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

① 寺尾健夫, 学テで「総合的学力」を育てる, 教育科学社会科教育, 無, 620号, 2010

〔学会発表〕(計1件)

① G. Scheurman & Takeo, Terao Hiroshima: An Inquiry Experience and Model, NCSS (National Council for the Social S

tudies) 89th Annual Conference 2009, November 14, 2009 , Atlanta, USA

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕